

ねやがわ乗合いワゴン実証実験による結果報告書（案）概要版

I 目的

公共交通空白地域をカバーするため、電話一本で無料で利用できる「ねやがわ乗合いワゴン」の実験導入を行い、シルバー世代の方や妊婦の方々等を対象に、路線バス（タウンくる含む。）やタクシーなど、既存の公共交通網を補完する「第三の公共交通機関」として運行するために実施したものです。

II 事業概要

- 1 各地域の構成（令和2年4月1日現在）
 - (1) 成田地区 合計5町、高齢者数（70歳以上）1,947人
 - (2) 仁和寺地区 合計8町、高齢者数（70歳以上）1,717人
 - (3) 河北地区 合計5町、高齢者数（70歳以上）1,232人
- 2 実証実験期間 令和元年12月20日から令和3年3月31日まで

III 各地域の状況 抜粋（令和元年12月20日～7月31日）

- 1 成田地区
 - ・ 1件あたりの乗車人数： 総件数1,278件、約86%の方が1人での乗車である。
 - ・ 1人あたりの利用回数： 1回でもご利用の方が97人
約60%（58人）の方が3回以上利用している（リピーター）。
- 2 仁和寺地区
 - ・ 1件あたりの乗車人数： 総件数1,129件、約68%の方が一人での乗車である。
 - ・ 1人あたりの利用回数： 1回でもご利用の方が81人
約61%（49人）の方が3回以上利用している（リピーター）。
- 3 河北地区
 - ・ 1件あたりの乗車人数： 総件数312件、約61%の方が一人での乗車である。
 - ・ 1人あたりの利用回数： 1回でもご利用の方が58人
約38%（22人）の方が3回以上利用している（リピーター）。

3地区に共通する要望・意見

- ・ 便利で、助かっている
- ・ ぜひ、続けてしてほしい
- ・ エリアが狭いため利用しづらい
- ・ エリア外にも運行してほしい
- ・ 電話してから時間がかかる

IV 交通事業者等との会議等（ねやがわ乗合いワゴン連携会議）

市、京阪バス株式会社、日本タクシー株式会社寝屋川総合営業所（一般社団法人大阪タクシー協会から推薦）、近畿運輸局大阪運輸支局とねやがわ乗合いワゴンの運行前から、本格導入に向けデータの抽出など必要事項を協議・検討を行っている。

V 検証結果

- ・ アンケート結果から、エリアの拡大や目的地の地区外への設定、運行時間の拡大などの検討が必要である。
- ・ ご利用の少ない日や時間帯があり、ご利用に応じた運用の検討が必要である。
- ・ 男性のご利用が少なく、利用促進策の検討が必要である。
- ・ バス停への接続が想定以上に少ない結果となっており、バス利用を促進するための連携の検討が必要である。
- ・ 特定の方のご利用が多くなっていることから、誰もが利用できるよう、公共交通のアクセシビリティ、利便性を向上させ、利用促進を図る検討が必要である。
- ・ 交通事業者への影響については、全域のデータと差異がなく、明確な競合は判断できなかった。

VI 実証実験を踏まえた今後の事業実施案

「ねやがわ乗合いワゴン事業」は、利用者の利便性を向上させることにより、交通事業者との競合が生じる課題があり、地区の設定を小さくし、行き先を限定的にする必要があった。これまでの実証実験を踏まえ、各地区の要望・意見の中で、駅や行きなれた総合病院などの行き先の追加や利用区域を拡大しなければ、利用者の利便性を向上させることはできない。今後、交通事業者との競合を踏まえ、利用者の利便性を向上させるべく、次の事業を行うことで相乗効果を生み出し、市域全体への運用拡大を見据えた、新たな交通体系を構築するため、以下の2つの事業を提案します。

☆ 対応方針（2つの事業により、相乗効果を生み出す）

- ① 乗合い事業（乗合いワゴンの発展的な事業展開（デマンドタクシー））
一般社団法人大阪タクシー協会と負担金協定を締結し、利用に応じて利用料金相当額を支払うことで事業を行う。
- ② 外出支援事業（デマンドタクシーと公共交通機関との連携）
京阪バスと負担金協定を締結し、対象者へバス乗車券（1枚100円（障害者は50円）・10枚綴り）の販売を行う。

令和2年10月
まちづくり推進部 交通政策課